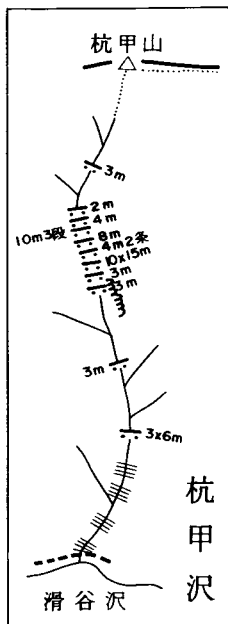


F2三びもなんとなく越えると、二俣となる。水量の多い右俣に入る。

沢が左に曲がる所にF3三びがかかり、そこより核心部となる。八個の滝が続くが、いずれも直登でき、なかなか良い遊行となる。

左より小沢が入り、F10三びを過ぎると、水も少なくなる。やがて沢はルンゼ状となって水も涸れる。ルンゼを登りつめ、杭甲山頂上に突き上げた。

〔タイム〕 杭甲沢出合(九:三五) ↓ 遊行終了(一〇:三〇) ↓ 杭甲山 (一〇:五〇)



杭甲沢

小滝を越すと、今度はミニゴルジュ。しかし、通過に困難はない。やがて、五び前後の小滝が連続するよ

三本松沢左俣

L 冊

一九八五年九月二二日

杭甲山山頂より北側のコルに向けてヤブをこぐ。ここにはかすかな踏跡が残されているが、ほとんどヤブにうめつくされようとしている。

コルより下降開始。すぐ沢に出て、八×一二びのナメ滝。これを降りると、すぐ左岸から四び滝をかけて小沢が合流する。ここで昼食をとり、再び下降再開。

うになるが、いずれの滝もクライミングダウンにて下降可能。そのあとすぐ中俣を合わせ、沢は平凡となる。

このまま終わるのかと思ったら、右俣を合わせたあとにきれいなナメが出てきた。滑谷沢との出合まで続く。最後は気分よくしめくくることができた。

〔タイム〕 杭甲山(一一:〇〇) ↓ コル(一一:一五) ↓ 中俣出合(一二:〇〇) ↓ 滑谷沢出合(一二:二〇)

